

## 内閣府本府政策評価有識者懇談会（第54回）議事要旨

1. 日 時 令和6年9月5日（木）9:30～11:38

2. 場 所 中央合同庁舎第8号館5階共用B会議室

3. 出席者

（委員）

座長	白石 小百合	横浜市立大学国際商学部教授
	小野 達也	追手門学院大学地域創造学部教授
	佐藤 徹	高崎経済大学地域政策学部、大学院地域政策研究科教授
	佐藤 主光	一橋大学経済学研究科教授
	横田 響子	株式会社コラボ代表取締役

（内閣府）

	岡本 直樹	内閣府大臣官房政策立案総括審議官
	入野 史也	内閣府大臣官房政策評価広報課課長補佐

4. 議題

- （1）令和6年度を事後評価の対象期間の初年度とする施策に係るロジックモデル及び事前分析表（案）について
- （2）令和6年度実施施策に係る政策評価の事前分析表における目標値等の変更について

5. 議事要旨

- 令和6年度を事後評価の対象期間の初年度とする施策に係るロジックモデル及び事前分析表に関し、各部局（大臣官房公文書管理課・公文書監査室、大臣官房アイヌ施策推進室、政策統括官（原子力防災担当）、政策統括官（経済安全保障担当）、食品安全委員会事務局、日本学術会議事務局、官民人材交流センター）からヒアリングを実施。委員からの主な意見やコメントは以下のとおり。

《公文書管理の適正な実施》

- ・ 測定指標1について、アウトカムが改善されているか確認するための指標を置くことができるのではないか。（横田委員）

- 参考指標 3 について、単に研修を実施するだけではなく、理解度やフォローアップ等の研修の効果を測るための指標は設定できないのか。(佐藤主光委員)

#### 《アイヌ施策の推進》

- 参考指標 5 について、アイヌの文化に対して接している人たちの年齢層はどのようになっているのか。あまり高齢化すると長続きしない可能性があるもので、できるだけ若年層に関心を持ってもらいたいのであれば、年齢別に調査・分析すると良いのではないか。(佐藤主光委員)
- 測定指標 1 について、全体として、例えば前年度より各項目の数値が上昇したかどうかについて、上昇した市町村と項目の数をを用いたシンプルな指標を設定した方が良いのではないか。(小野委員)
- フォローアップのアンケートについて、内容を工夫した方が良いのではないか。参加者の満足度だけでなく、自治体として前年度と比較してどこが良くなったのか、今後の課題は何になるのか、など付加的情報も把握することが必要ではないか。(横田委員)

#### 《原子力災害対策の推進》

- 測定指標 1 - 1 について、計画の策定件数 122 という目標値を掲げているが、対象市町村も 122 であり、100%を目指すという目標だと理解した。その点を事前分析表の該当欄に記載いただきたい。(小野委員)
- 測定指標 2 について、研修を受講した人がどのくらい訓練に参加するかを測る指標になっており、防災訓練の指標というより、むしろ研修の評価指標のように思われる。研修に関係者が欠かさず参加するものであれば、訓練自体の評価指標とも言えるが、例えば参加者の数に増減があるのであれば、研修そのものの指標になるのではないか。(小野委員)
- 測定指標 2 について、令和 4 年度の関西電力美浜原発での訓練の参加率が 79%だったことから、それを超える目標値 (80%以上) を設定したのか。なぜ 8 割以上を目標とするのか理由を事前分析表に記載してほしい。(小野委員)

#### 《安全保障の確保に関する経済施策の推進》

- 測定指標 1 について、指標の名称からは定性的指標のように見えるが、目標値は 100%となっていて、実際には定量的に率で把握するものになっている。どのように定量的に把握されるのか。(佐藤徹委員)
- 測定指標 1 及び 3 について、定性的な部分があると思われるが、各計画や技

術プログラムを担当している方々の判断を引用する形になるのか、それとは別に内閣府として判断するのか。(小野委員)

- 特定重要物資（12件）と供給確保計画（74件）の関係について、事前分析表に説明を追記することを検討いただきたい。(横田委員)

#### 《食品健康影響評価に関する施策の推進》

- 測定指標1について、実施状況を毎年度62%以上と設定するのは良いが、国民の感覚からすると、62%では不安という印象を持つと思われる。例えば、参考指標として3年後の実施状況を設定するともう少し数値が上がるのであれば、一層安心感が高まるのではないか。(横田委員)
- 測定指標2-1について、目標値を平成25年度から27年度の3年間の平均以上としているが、この3年間の基準にした理由を説明していただきたい。(小野委員)
- 中目標（アウトカム）に掲げられている「評価結果をリスク管理へ反映（リスク管理機関が実施）」について、アウトプットにも捉えられるし、アウトカムにも捉えられる。どのように整理したのか。(佐藤徹委員)

#### 《日本学術会議に関する施策の推進》

- 日本学術会議の認知度について、一般国民とは言わないまでも同業者である学術研究者間でどのように活動が認知されているかに関する調査を実施しても良いのではないか。(佐藤主光委員)
- 政府・社会等への提言等について、政策評価になじまないという説明をされているが、設定したアウトプット、アウトカムを政策評価の枠組みの中で確認できる仕組みはあるか。(白石座長)

#### 《国家公務員の再就職支援及び官民の人材交流の円滑な実施の支援》

- 中目標2について、再就職者数だけではなく、再就職率も併記した方が、受け手側からすると全体像や推移が分かるということで親切だと思われるので、検討いただきたい。(佐藤徹委員)
- 測定指標2について、法人数で設定しているが、法人のどのような分野に今後てこ入れが必要なのか分かるような目標値の検討をしても良いのではないか。(佐藤主光委員)
- 測定指標1について、過渡期の事業であるにしても、一定の投資をしているので、離職者に1つの選択肢として選んでもらえることが重要で、例えば、

2～3割の人に使ってもらえる等、ある程度最終形をイメージしつつ、そこに至るロードマップを考えても良いのではないか。(横田委員)

○ 令和6年度実施施策に係る政策評価の事前分析表における目標値等の変更について、政策評価広報課及び健康・医療戦略推進事務局から説明。委員からの主な意見やコメントは以下のとおり。

- 測定指標5について、オプトアウト率を設定するのは良いと思われる。オプトアウト率は抑えるためには、さまざまな懸念材料を払拭していく必要があるのではないか。そのため、オプトアウトする人々がどのようなことに懸念を持っているのかに関して調査しても良いのではないか。(佐藤主光委員)

<文責：内閣府大臣官房政策評価広報課>